

Wachet! betet! betet! wachet! BWV 70
Kantaten zum 26. Sonntag nach Trinitatis

Erster Teil

1. Chor

Wachet! betet! betet! wachet!
seid bereit
Allezeit,
Bis der Herr der Herrlichkeit
Dieser Welt ein Ende macht.

2. Rezitativ (Baß)

Erschrecket, ihr verstockten Sünder!
Ein Tag bricht an,
Vor dem sich niemand bergen kann:
Er eilt mit dir zum strengen Rechte,
O! sündliches Geschlechte,
Zum ewgen Herzeleide.
Doch euch, erwählte Gotteskinder,
Ist er ein Anfang wahrer Freude.
Der Heiland holet euch,
wenn alles fällt und bricht,
Vor sein erhöhtes Angesicht;
Drum zaget nicht!

3. Arie (Alt)

Wenn kömmt der Tag, an dem wir ziehen
Aus dem Ägypten dieser Welt?
Ach! laßt uns bald aus Sodom fliehen,
Eh uns das Feuer überfällt!
Wacht, Seelen, auf von Sicherheit
Und glaubt, es ist die letzte Zeit!

4. Rezitativ (Tenor)

Auch bei dem himmlischen Verlangen
Hält unser Leib den Geist gefangen;
Es legt die Welt durch ihre Tücke
Den Frommen Netz und Stricke.
Der Geist ist willig, doch das Fleisch ist
schwach;
Dies preßt uns aus ein jammervolles Ach!

5. Arie (Sopran)

Laßt der Spötter Zungen schmähen,
Es wird doch und muß geschehen,
Daß wir Jesum werden sehen
Auf den Wolken, in den Höhen.
Welt und Himmel mag vergehen,
Christi Wort muß fest bestehen.
Laßt der Spötter Zungen schmähen,
Es wird doch und muß geschehen!

カンタータ第 70 番 《目覚めて祈れ、祈って目覚めよ》

三位一体後第 26 主日用
聖句 書簡第 2 ペトロ 3,3-13
福音書マタイ 25,31-46
歌詞台本 ザロモン・フランク

第 1 部

1. 合唱

目覚めよ、祈れ、祈れ、目覚めよ！
いつも
備えなせ
栄光ある主が
この世に終わりをもたらすまで。

2. レツィタティーフ (バス)

恐れよ、強情な罪人たち！
特別な日がくると、
その日には、誰も隠れていることは出来ないのだ。
おお、罪深い族(やから)よ
その日はお前を厳しく裁くために急いでやってくる、
永遠の心の痛みを受けるのだ。
だが、選ばれた神の子たちよ、
その日は真の喜びの始まりなのだ。
全てのものが倒れ、壊れる時でも、
救い主はお前たちを貴い御顔の前に
呼び寄せられる。
だから怯えることはないのだ！

3. アリア (アルト)

その日はいつ来るのか、
われらが現世のエジプトから導き出されるその日は？
ああ、われらをすぐにソドムから逃がせたまえ、
炎がわれらに襲いかかるその前に。
目覚めよ、魂たち、安逸の眠りから、
そして信じなさい、今こそ最後の時だと。

4. レツィタティーフ (テノール)

心は天を求めたとしても
体が霊を捕らえて放さない。
この世は策略をもって
敬虔な者たちに網や縄を仕掛ける。
心は燃えても、肉体は弱い。 [マタイ 26, 41 参照]
こうしてわれらは苦しみに満ちたうめき声を搾り出す。

5. アリア (ソプラノ)

神をあざける舌よそれならそうするがいい、
しかしそのことはかならず起きるのだ、
われらがこの目で、雲の上、いと高いところにおられる
イエスを見るであろうことが。
世も天も過ぎ去ってゆくが、
キリストの御言葉は固く存在し続けるのだ。
神をあざける舌よそれならそうするがいい、
しかしそのことはかならず起きるのだ。

6. Rezitativ (Tenor)

Jedoch bei dem unartigen Geschlechte
Denkt Gott an seine Knechte,
Daß diese böse Art
Sie ferner nicht verletzt,
Indem er sie in seiner Hand bewahrt
Und in ein himmlisch Eden setzt.

7. Choral

Freu dich sehr, o meine Seele,
Und vergiß all Not und Qual,
Weil dich nun Christus, dein Herre,
Ruft aus diesem Jammertal!
Seine Freud und Herrlichkeit
Sollt du sehn in Ewigkeit,
Mit den Engeln jubilieren,
In Ewigkeit triumphieren.

Zweiter Teil

8. Arie (Tenor)

Hebt euer Haupt empor
Und seid getrost, ihr Frommen,
Zu eurer Seelen Flor!
Ihr sollt in Eden grünen,
Gott ewiglich zu dienen.

9. Rezitativ (mit instr. Choral : Baß)

Ach, soll nicht dieser groß Tag,
Der Welt Verfall
Und der Posaunen Schall,
Der unerhörte letzte Schlag,
Des Richters ausgesprochne Worte,
Des Höllenrachens offne Pforte
In meinem Sinn
Viel Zweifel, Furcht und Schrecken,
Der ich ein Kind der Sünden bin,
Erwecken?
Jedoch, es gehet meiner Seelen
Ein Freudenschein, ein Licht des Trostes auf.
Der Heiland kann sein Herze nicht verhehlen,
So vor Erbarmen bricht,
Sein Gnadenarm verläßt mich nicht.
Wohlan, so ende ich mit Freuden meinen Lauf.

6. レツィタティーフ (テノール)

しかし、言うことをきかない族(やから)であっても
神はその僕のことは考えておられる、
この種のよくない人間が
これからも神の機嫌をそこなうことのないように、
神は彼らを御手の内に守ることで、
天のエデンの園へと置かれるのである。

7. コラール

心から喜べ、わが魂よ、
そして忘れよ、全ての困苦と苦難を、
いま、お前の主、キリストが、
この嘆きの谷からお前を呼び出すのだから！
主の喜びと栄光を
お前は永遠に見ることになる、
天使たちと共に歓呼し、
永遠の勝利を祝おうではないか。

[作者不詳のコラール「心から喜べ、わが魂よ」Freu dich sehr, o meine Seele(フライベルク、1620)の最終節]

第2部

8. アリア (テノール)

頭を高く上げよ
そして元気を出せ、汝ら敬虔な者たちよ、
お前たちの魂の花盛りに。
お前たちはエデンの園で緑萌え、
永遠に神に仕えることになる。

9. レツィタティーフ (コラール定旋律付。バス)

ああ、この偉大なる日が、
この世の崩壊と
ラッパの響き、
聞いたこともない最後の雷、
裁きの手の宣告の御言葉、
口を開いた地獄の深淵などが、
罪の子であるわたしの心に
多くの疑念と恐怖と驚きを、
呼び起こさないことがあろうか。

しかしわたしの魂には
一筋の喜びの輝き、なぐさめの光が立ち上る。
救い主は御心を隠すことができずに、
哀れみがほどばり出る、
主の恵みの御腕はわたしを見捨てはしない。
幸にも、このようにわたしは生涯を喜びと共に終えるのだ。

10. Aria (Baß)

Seligster Erquickungstag,
Führe mich zu deinen Zimmern!
Schalle, knalle, letzter Schlag,
Welt und Himmel, geht zu Trümmern!
Jesus führet mich zur Stille,
An den Ort, da Lust die Fülle.

11. Choral

Nicht nach Welt, nach Himmel nicht
Meine Seele wünscht und sehnet,
Jesum wünsch ich und sein Licht,
Der mich hat mit Gott versöhnet,
Der mich freiet vom Gericht,
Meinen Jesum laß ich nicht.

10. アリア (バス)

幸せで爽快な日よ、
わたしをお前の部屋に連れて行っておくれ！
響け、とどろけ、最後の雷よ、
世も天も、粉々に碎け散れ！
イエスはわたしを静寂へともたらず、
喜びいっぱいその場所で。

11. コラール

世でもない、天でもない
わが魂が願い、あこがれるのは、
わたしが願うのはイエスとその光、
イエスはわたしを神と和解させ、
わたしを裁きから自由にされた、
だからわたしはイエスを放さない。

[クリスティアン・カイマン作のコラール「わがイエスを離さず」]

Meinen Jesum laß ich nicht(16588)の第5節]